

# 南浦和中だより

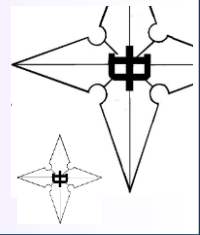
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



## 『どんなときも。』



校長 おお こ うち のり かず 大河内 範一

昔からよくお笑い番組を観ていた。私が好きだった芸人といえば、萩本欽一（古い…）、ツービート（これも古い…）、ダウタウン、ナイツ、千鳥、チョコプラ…、そして、ここ数年で最も観ているのが、「サンドウィッチマン」である。

先日、コンビの一人である伊達みきおさんが病気を公表し、当面の間休養するというニュースが目に入ってきた。テレビで拝見する伊達さんは、いつも元気そのもので、豪快に食べ、豪快に笑い、豪快にツッコミを入れる。ただし、元気そうに見える人ほど、本当は無理をしているのかもしれない。今回は、体からのSOSに早く気付き、相方の富澤たけしさんらの勧めもあってすぐに病院を受診したことで、適切な治療につながり、大事には至らなかったとのことである。

今回のニュースを見て、改めて健康について考えさせられた。私は毎年人間ドックを受けているものの、受診して満足しているだけ。血中脂質や肝機能の数値も芳しくないのに、改善策を講じていない。適度な運動が必要と分かっているが、犬の散歩さえ面倒臭がっている。もっとも、今もお菓子をムシムシ食べながらこの原稿を書いているので始末が悪い。本気で反省し、自分の健康と真剣に向き合う必要がある。

さて、私がサンドウィッチマンを見ていて素晴らしいと思うのは、その笑いの在り方である。世の中にはさまざまな笑いがある。誰かをからかったり、失敗を笑いの種にしたりするものもある。しかし、お二人の漫才には不思議な温かさがある。見終わった後に嫌な気持ちが残らないのである。それはきっと、人を傷付けるのではなく、心から相手を楽しませようとしているからであろう。誰かを笑いものにすることは簡単である。しかし、みんなが笑顔になれる言葉や行動には、相手への思いやりが欠かせないから実は難しい。富澤さんが書く台本は、笑いのセンスが抜群だ。だからこそ、サンドウィッチマンのお二人は幅広い世代から愛されているのであろう。

また、お二人はコンビとしての関係も良好である。高校時代からの友人であり、長い年月を共に歩んできた。伊達さんの病気が公表された際も、富澤さんは必要以上に騒ぎ立てることなく、普段と変わらない姿勢で情報を発信していた。そんな様子を見ると、本当の友情とは何なのかと考えさせられる。いつも通り声を掛けること、いつも通り隣に居ること、いつも通り笑い合うこと…。それは簡単なようでいて、実はとても大切で、大きな力を持っているのである。

人生には思いがけない出来事が起こる。健康な日ばかりではないし、うれしい日ばかりでもない。それでも、どんなときも笑顔を忘れず、仲間を大切に、自分らしく歩んでいきたいものである。そして伊達さんには、ゆっくりと休養し、また元気な姿で戻ってきてくださることを願っている。